

令和六年度歴史資料解説会 倉敷村の豪商 中島屋大橋家文書を読み解く

大橋平右衛門と

代官下役人たち



大橋平右衛門正直

内田清次郎
臣亮米

中島備平

長久
大橋武忠

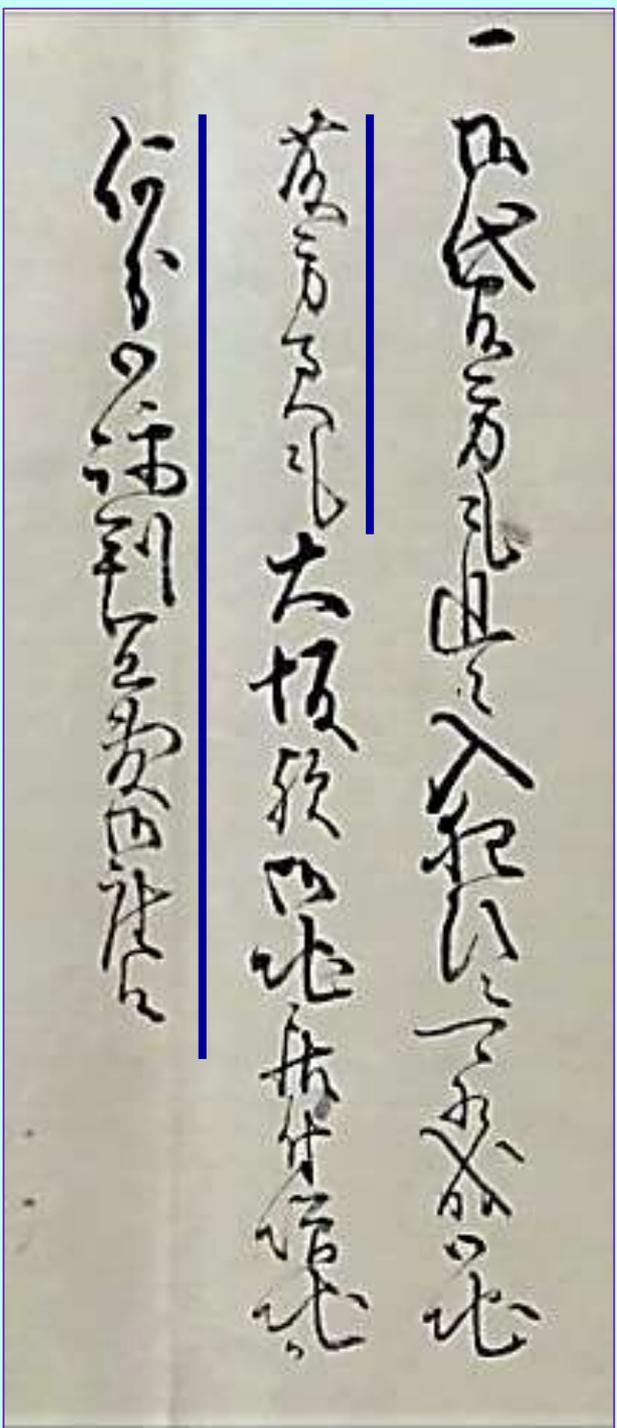
高橋三右衛門

山崎徳助

表1 大橋家文書に名前が見られる
倉敷代官の手附・手代たち

氏名	仕えた倉敷代官	倉敷代官在任期間	役職
内田弾助	大原四郎右衛門信好	文化6～文政元	手附
★ 下又平	大草太郎右馬政郷	文政元年～文政12	手代
宇佐美律右衛門	古橋新左衛門忠良	天保元～天保7	手附(元締)
逸見八介			手附(公事方)
田中宗吾			手代
宇佐美郷一			手代
広田清吉	藤方彦市郎忠列	天保13～嘉永3	手附(元締)
★ 小磯錠助			手代
★ 野中修平			手代
松井孝三郎			手代
青木新左エ門	佐々井半十郎	嘉永3～安政5	手附(元締)
★ 下又平			手附(元締)
★ 野中修平			手代
杉浦武助	田中庄次郎時楸	安政5～6年	手附(元締)
高橋勇蔵			手附(公事方)
池田泰蔵	大竹左馬太郎勝昌	万延元～元治元	手附(元締)
★ 小磯錠助			手附(元締)
長谷川仙介			手附
関口謙之進			手附(元締)
田中東蔵	桜井久之助知寿	元治元年～慶応3	手附(元締)
逸見小十郎			手附(公事方)
長谷川仙介			手附

倉敷代官藤方彦市郎の評判

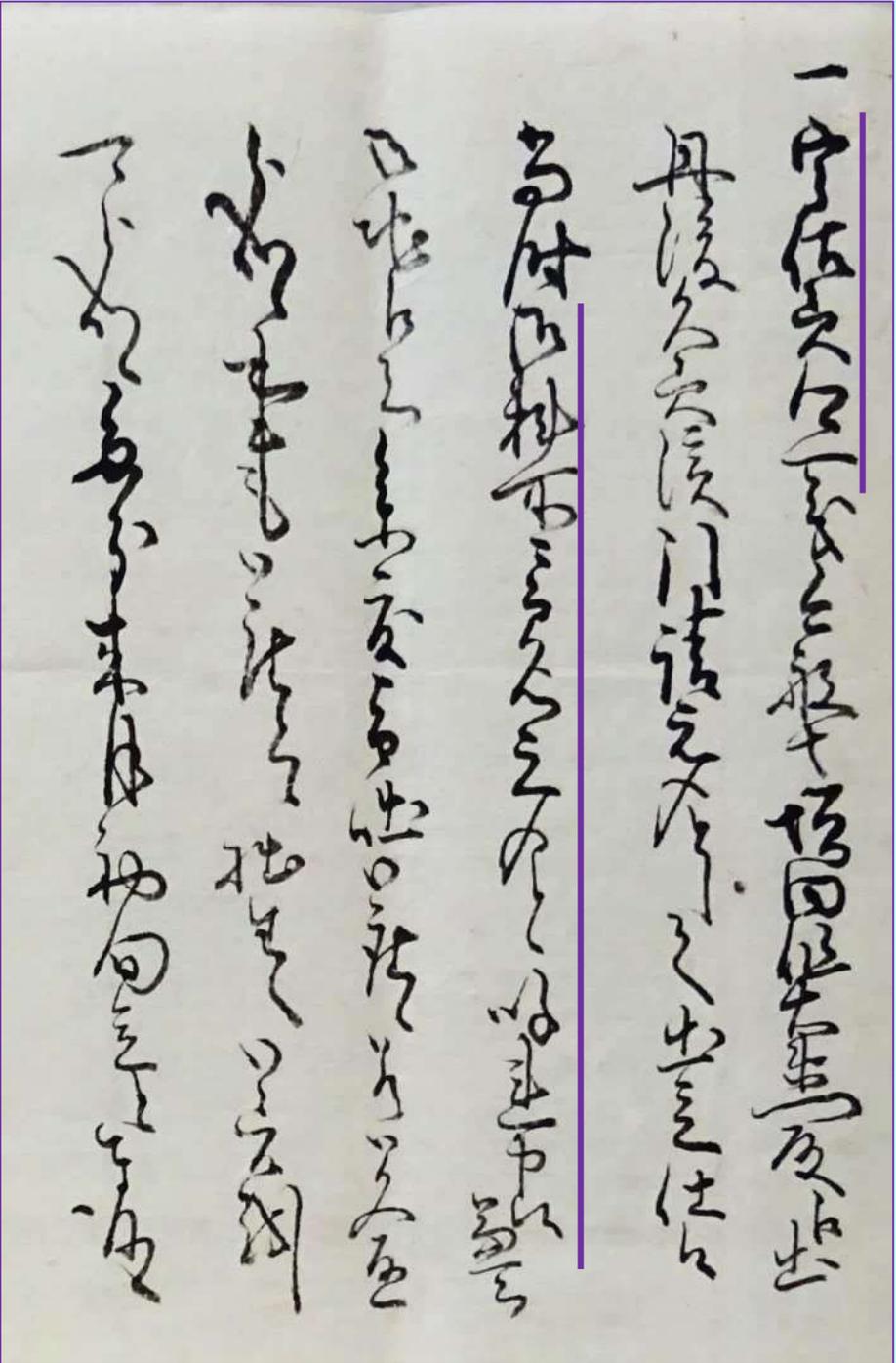


藤方君も

何分御評判宜敷御座候

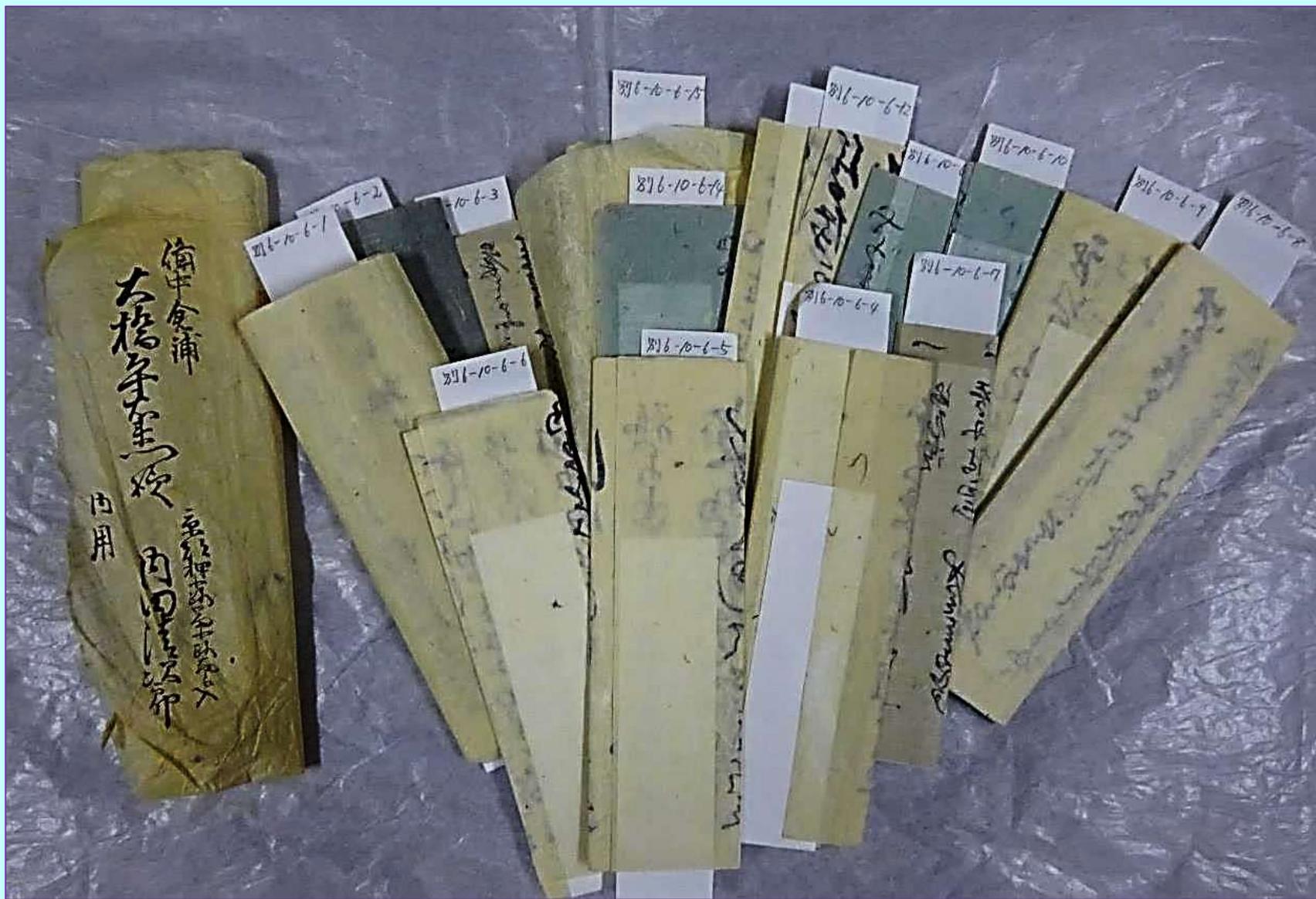
名元締・宇佐美郷一

宇佐美郷一



御料所にて名元締と呼ばれ申候

大橋平右衛門宛内田清次郎書状



大橋紀寛家文書別6-10-6

表1 大橋家文書に名前が見られる
倉敷代官の手附・手代たち

氏名	仕えた倉敷代官	倉敷代官在任期間	役職
内田弾助	大原四郎右衛門信好	文化6～文政元	手附
下又平	大草太郎右馬政郷	文政元年～文政12	手代
宇佐美律右衛門	古橋新左衛門忠良	天保元～天保7	手附(元締)
逸見八介			手附(公事方)
田中宗吾			手代
宇佐美郷一			手代
広田清吉	藤方彦市郎忠列	天保13～嘉永3	手附(元締)
小磯錠助			手代
野中修平			手代
松井孝三郎			手代
青木新左エ門	佐々井半十郎	嘉永3～安政5	手附(元締)
下又平			手附(元締)
野中修平			手代
杉浦武助	田中庄次郎時楸	安政5～6年	手附(元締)
高橋勇蔵			手附(公事方)
池田泰蔵	大竹左馬太郎勝昌	万延元～元治元	手附(元締)
小磯錠助			手附(元締)
長谷川仙介			手附
関口謙之進			手附(元締)
田中東蔵	桜井久之助知寿	元治元年～慶応3	手附(元締)
逸見小十郎			手附(公事方)
長谷川仙介			手附



表2 内田清次郎略年譜 (年齢は数え年)

年		歳	事跡
寛政6	1794	1	誕生
天保9	1838	45	五郎右衛門から清介と改名。御料所手代見習いに出役
天保10	1839	46	関東代官・林金五郎政幸の江戸詰め手代となる
天保13	1842	49	※1葦山代官・江川太郎左衛門英龍の江戸詰め手代となる
天保14	1843	50	4月日光御参詣御用取人を仰せつかり関東代官・大熊善太郎喜住御手へ出役する この年より浪々の身となる
弘化元	1844	51	倉敷村に逗留
弘化2	1845	52	京都・大坂にでかけ京都の大原呑舟宅に滞在。当時伊勢にいた呑舟を訪ねる
弘化3	1846	53	正月15日の火事で湯島三組町の家が類焼。辰巳坂(ごみ坂)に仮住まいする
			天神下手城町の中泉代官・山上藤一郎定保役所詰めとなり同所に仮住まいする
			3月 江川の貰い受けになる。ただし肩書のみ
			5月 困窮し大橋正直に十両の借金を願い出る
			7月 宇佐美郷一の厚情により※2飛騨郡代・小野朝右衛門高福の江戸詰め手代となる 評定所留役を務めた小田切庄三郎地面を借りて住まう
嘉永2	1849	56	小野朝右衛門高福拝領屋敷に引っ越す
嘉永3	1850	57	倉敷に赴任する佐々井半十郎代官に倉敷村の世情などを話す
嘉永4	1851	58	御城向ならびに勘定所出役を免じらる 2月 伝奏御用取人となり伝奏屋敷へ引っ越す
嘉永7	1854	61	※3石見大森代官・屋代増之介忠良の江戸詰め手代となる
安政2	1855	62	下田奉支配組頭・松村忠四郎長為の手代となる
安政5	1858	65	大坂代官・屋代増之介忠良の江戸詰め役人となる
安政5	1858	65	
文久元	1861	68	※4淀川過所船支配兼代官・角倉与一玄寧の京都詰め手代となる
文久3	1863	70	
明治14	1881	88	本所相生町三丁目二十六番地に在住。歌人として人名録に名前が記載される
明治17	1884	91	死去

表2 内田清次郎略年譜

表3 内田清次郎の書状に名前が見られる文化人たち

名前	生没年	略歴
小堀宗中	1786～1867	茶道遠州流第八世。近江の生まれ。文政11年幕臣として召し出され小堀家を再興。能書家としても知られる
松村景文	1843～1779	画家。四条派の画家・松村呉春の異母弟。兄に学んで花鳥画を得意とし四条派の隆盛をもたらした
柴田義堇	1780～1819	画家。備前国邑久郡尻海村の豪商の家に生まれる。上京して松村呉春の門に入り岡本豊彦、松村景文らとともに高弟の一人に数えられる
大原呑舟	?～1858	津軽出身の画家。山水花鳥を得意とした大原呑響の子。画法を柴田義堇に学ぶ
古市金峨	1805～1880	画家。児島郡尾原村生まれ。京都の岡本豊彦に学ぶ。
野田笛甫	1799～1858	漢学者。丹後田辺藩士の子として生まれる。江戸へ出て古賀精里、古賀侗庵に学び帰郷して田辺藩儒となる
仁科白谷	1791～1845	儒者・漢詩人。備前邑久郡虫明村に生まれる。亀田鵬斎、猪飼敬所に学ぶ。鵬斎の子綾頼とも親しかった。その高風英才は天下に知られ老中水野忠邦に召しだされたが固辞したという。大橋正直の師でもある
的場天籟	生没年不詳	医師・書家。都宇郡早島村の医師・歌人の的場復斎の養子。京に上り室町に住して香川景樹に歌を学んだ
高橋波藍	生没年不詳	松前藩士。画家蠣崎波響の弟子。
椿椿山	1801～1854	南画家。江戸生まれ。幕府の鎗組同心で武術にも通じていた。谷文晁の門人・金子金陵に学び後渡辺崋山に師事した。代官江川英龍の画の師
中林竹洞	1776～1853	近世後期を代表する文人画家。尾張名古屋の医師の子に生まれる。頼山陽・貫名海屋らと交遊。画論・歌論・国家論などの著書がある
岡田半江	1782～1846	南画家。岡田米山人の子。大坂における文人画家の中心的存在であった
羽倉外記	1790～1862	幕府代官・儒学者。号は簡堂。大坂生まれ。天保13年水野忠邦の抜擢で勘定吟味役に昇格するが水野の失脚により職を失い弟に家督を譲って隠居した。『海防私策』を著し国防を論じる
貫名海屋	1778～1863	儒者・書家・画家。阿波藩士の子として生まれる。市川米庵・巻菱湖とともに幕末の三筆と称される
梁川星巖	1789～1858	漢詩人。美濃国安八郡曾根村の郷土の子に生まれる。藤田東湖・佐久間象山らと交わり時事への関心を高め後に尊王攘夷を主唱した。五千首に及ぶ詩を遺し評価は頼山陽よりも高い
大田垣蓮月	1791～1875	歌人。伊賀上野城代家老の庶子として生まれる。美貌と歌才で幕末の文人にもてはやされた。蓮月焼と称された自作の陶器も評判であった
梅辻春樵	1776～1857	漢詩人。日枝神社の禰宜を務める家に生まれる。漢学を皆川淇園、村瀬栲亭に学ぶ。絢爛な詩風の詩人として名高かった

京の画家・文人たちの情報

大橋紀寛家文書別6-10-6-2

三人

一義堂信口家札物 一後
也信吉妻也山房

柴田義董

少子吞舟探し下坊と云舟
大原吞舟

心在こゝの如く流るる

心在こゝの如く流るる

心在こゝの如く流るる

心在こゝの如く流るる

一松村景文

一円山応挙

心在こゝの如く流るる

心在こゝの如く流るる

心在こゝの如く流るる

心在こゝの如く流るる

心在こゝの如く流るる

梅辻春樵

貫名海屋

心在こゝの如く流るる

大田垣蓮月

大橋正直宛内田清次郎書状

山田先生は兼て御懇意
の由、私義も到親

山田先生は兼て御懇意
の由、私義も到親

大橋家の書画帳

一翠文 瓢圖	横	走幅
一翠文中富士 <small>右鶴圖</small>	三幅	對
一翠文 吳陽大中臣 瓊峨圖	聖	双幅
一豊彦 山嵐山春 秋圖	聖	双幅
一豊彦 山水 漁天圖	聖	老幅
一月岡 聖鼎 佛前圖	左	
一月岡 聖鼎 位立 詣圖	左	
一西山 芳園 常盤神前 雲中 苦節圖	左	
一西山 芳園 山水圖	全	
一森 一風 福鹿 壽圖	全	

一岸 駒草 文君 外三幅
一岸 蓮山 孔雀圖
一岸 駒山水圖
一岸 竹堂 夜櫻圖
一南 溟人 物圖
一南 溟陶 朱賢 退讓
一鏡 旭 携女圖
一森 寛 齊人 物圖
一義 董 加茂 競馬圖
一義 董 韓 信圖

一義 董 孔明圖	左	
一蘭 溪 美人圖	左	
一吞 舟 龜頭圖	左	
一吞 舟 狐狗圖	左	
一吞 舟 虎圖	左	
一吞 舟 山水圖	左	
一長 次 芳洲 楊妃圖	左	
一末 主 平 鶴圖	左	
一清 暉 雪中 在 若松圖	聖	双幅

中島 校 隱 後 藤 松 隱 君 貞

一清 暉 天照 皇天 神宮	聖	走幅
一容 齋 厚 三位 射鶴圖	聖	双幅
一容 齋 芙蓉圖	聖	老幅
一容 齋 雨中 鶴圖	左	
一容 齋 草 盛圖	左	
一古 市 金 崎 楠 公圖	全	
一馬 嶽 美人圖	左	
一古 市 金 崎 鴨 柳圖	左	
一左 入 舟圖	左	
一全 山 水圖	左	

御火中く

御火中く
御火中く

決して他見無用

大橋平左衛門
極内密要用

極内々

内密

く札く御秘

御秘

倉敷へ赴任する佐々井代官に面談

御内々佐々井県令えも
御内宅にて万々御物語仕り

心ゆへは井縣令えも
御内宅にて万々御物語仕り
御内々佐々井県令えも
御内宅にて万々御物語仕り
御内々佐々井県令えも
御内宅にて万々御物語仕り
御内々佐々井県令えも
御内宅にて万々御物語仕り
御内々佐々井県令えも
御内宅にて万々御物語仕り

大橋正直宛野中修平書状

岡熊一条

大橋正直様
野中修平様宛
書状
大橋様
御座候
事
大橋様
御座候
事
大橋様
御座候
事

新県令不案内
大に泥し候よしの風評に御座候

大橋正直宛内田清次郎書状

※訴訟方不利の忠告

この間の御吟味にては
訴訟方申分相立がたく丸負と相成べきや

一由此後御下付も仕らざる御吟味にては
訴訟方申分相立がたく丸負と相成べきや
了りぬ也一日心懸く御吟味にては
丸負と相成べきや御吟味にては
丸負と相成べきや御吟味にては
丸負と相成べきや御吟味にては
丸負と相成べきや御吟味にては
丸負と相成べきや御吟味にては

丸潰れと

大骨折り致さず候ては

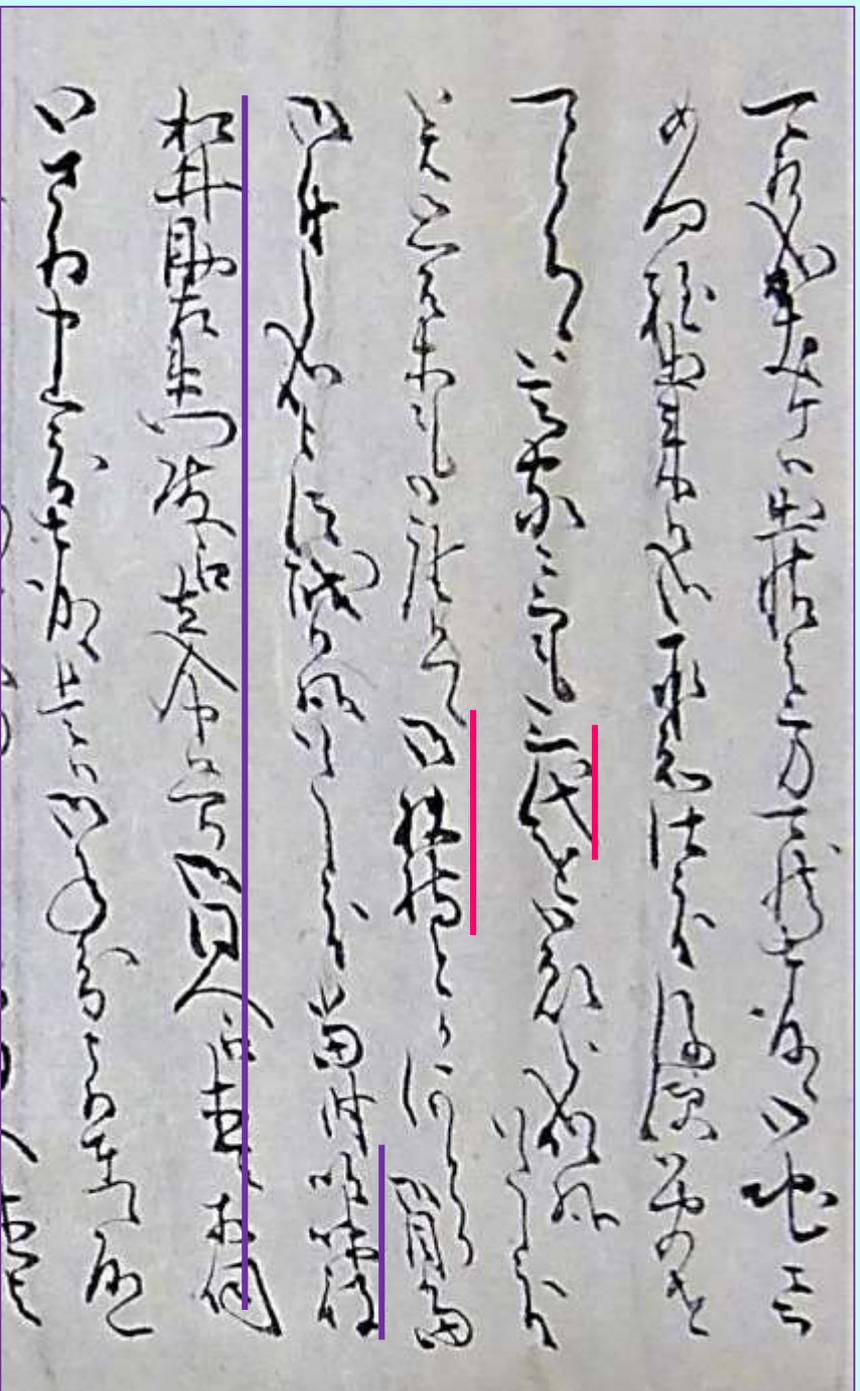
存じ奉り候

表4 大橋平右衛門の格式免許一覧

年代	格式免許	理由
天保12年	永々苗字名乗	飢饉対策に金1000両分の粳上納
弘化4年	一代帯刀	讃岐国塩浜新開5500両差出、窮民救済、銀24貫目上納
安政2年	俵代まで帯刀 一代二人扶持	御備筋に金1000両、銃1000貫目
安政5年	一代四人扶持	海岸御備筋に金1000両
文久元年	永々帯刀	難渋者に金200両、本丸普請に1000両
慶応2年 5月	一代七人扶持 孫代まで屋敷地免除	御進発に金1300両
慶応2年 12月	熨斗目継上下 永代十人扶持・ 居屋敷免除	京都御用途に2000両

大橋正直宛内田清次郎書状

大橋正直の望む恩賞を与えられるよう、
勘定吟味役・松井助左衛門に話をつける



吟味役松井助左衛門殿へ立入申し候間、
御同人へ直に相伺

大橋平右衛門宛内田清次郎書状

改唐之法... 亦有... 且其

言... 且其

彼... 且其

予... 且其

大... 且其

程... 且其

内田清次郎

丑亮

正月十八日

大橋平右衛門宛